第 36 号
2014. 1 月

かざぐるま

発行　城里町社会福祉協議会　☎029-288-7013　FAX　029-288-7021　ホームページ　http://www.shirosato-syakyo.com
編集　広報ボランティアグループ

新しい年の夜明け

東の空を黄金色に染めながら太陽が顔を出した。
これから１年、いやずっと陽の光は誰の上にも分けへだてなく降り注ぐ。
その下で私たちは全ての人々と手をつなぎ、思いやりの心を忘れず、
これからの人生を大切に生きていこう。

（大桂大橋より）

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は、城里町社会福祉協議会の事業に対しまして、ご理解ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本会では、住民の皆様はもちろん、民生委員・児童委員、社会福祉施設等の福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力のもと、地域の人々が住み慣れたまちで安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を目指し、様々な事業を行ってまいりました。社会福祉協議会（以下「社協」）の事業は種類が多く、参加する団体、組織も多様で、各市町村社協によっても地域の特性を活かし、創意工夫をした独自の事業を行うなど大きく異なっております。しかし、各社協が目指すものは共通です。

社会福祉法では、その目的を「地域福祉の推進を図ること」としています。すなわち、それぞれの地域において、人々が地域社会との関係を断たずに生活できるよう、地域住民、社会福祉関係者が協力し合い、福祉課題の解決を進めることです。福祉ニーズを持つ方が、安心して暮らせるよう、行政制度だけでなく、隣人・友人が支え合う町づくりを目指し、住民の皆様、関係機関等と積極的に連携を図りながら、今後ともなお一層努力してまいりたいと思いますので、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、平成26年が皆様にとりまして幸多い年でありますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

きらっと生きる　そば打ち名人　ここにあり

河原井　雄一さん（大網）

「美味しいそばが打てたらいいな」そば好きの人なら誰でも1度は思ったことがあるのでは・・・。

そんな思いを現実のものとして、平成13年福井県で行われた「全日本そば打ち名人大会」で優勝したのが、河原井雄一さんです。

河原井さんはサラリーマン時代（現在は整体施術院を経営）、そば好きの仲間４人と福島のそば道場に行ったのがきっかけとなり、そのそば道場に月１回、約１年通ってそば打ちを習ったそうです。初めは、四角に延ばす事ができなかったそばが、指導を受け四角に延ばせる様になり、きちんとしたそばが打てる様になりました。仲間４人とそば打ちの大会に出ると、いつも２人が入賞し、自分ともう１人の仲間は賞に入らない。その悔しい思いが、河原井さんを本格的なそば打ちに駆り立てました。練習は、そばをもらってくれる人を探すのが大変なくらい自宅でも打ちました。そして道場に通い始めてから５年、全国大会で優勝しました。

現在は茨城そばの会の一員となり、県内はもちろん栃木県や北海道などで行われる会の行事に参加しているそうです。「大勢の仲間に囲まれて、いろいろな人と出会う」そば打ちをしていて一番良い事がこれだそうです。

河原井さんは地元でも、公民館主催のそば打ち講座などで指導をしています。また大晦日には150人分くらいのそばを頼まれて打つそうです。

美味しいそばを打つコツを聞いてみると、「材料、３たて（挽きたて、打ちたて、茹でたて）、最後は美味しいものを食べさせてあげたいという気持ちです」と教えてくれました。

名人の河原井さんでも、自分が納得いくそばが打てるのは、10回やって１回くらいだそうで、改めてそば打ちの難しさを実感させてもらいました。

河原井　雄一さん

そば打ちの指導をしている様子

今年の抱負

午

平成２年生まれ

中村　昂嗣（こうじ）さん（石塚）

私の今年の抱負は、まず昨年以上に仕事に力を入れる事です。私は18歳から運送業をしています。そして18歳で結婚し、昨年３人目の子供が産まれ、３人の父親です。運送業を始めて６年目になりますが、まだまだ失敗もあります。でも失敗をバネにたくさん学び成長し、子供たちのためにも頑張りたいです。そして子供たちに元気に育ってほしいです。

平成14年生まれ

萩谷　秋音（あきね）さん（阿波山）

私は今年、小学校で最高学年の６年生になります。低学年の手本となり、みんなをまとめられるような６年生になりたいです。

今年、特にがんばりたいことは、金管クラブの活動です。私は、ユーフォニュームの楽器をやっていますが、ほかの楽器もやってみたいと思います。今年も、楽しい年になるといいです。

昭和29年生まれ

加藤木好子さん（北方）

結婚をし、城里町（旧桂村）へ来て33年が過ぎ、３人の子供達もそれぞれの道に進み、今は野菜を作ったり、ボランティアに参加したりして、毎日を楽しく過ごしています。しかし、体は正直で、あちこちガタがきていますが、気持ちだけは若く、元気に、これからもいろいろなことにチャレンジをしながら、夫婦２人で仲良く過ごしていければと思っています。

昭和41年生まれ

菊池真由美さん（石塚）

今年で４回目の干支を迎えました。でもまだまだ元気１００倍パワーで家族の健康を守ります。また、夢に向かって努力している子供たちを支えていきます。

そして大晦日には「今年も良い年だったね」と笑顔で言えるように頑張りたいと思います。

昭和53年生まれ

北川　通子さん（石塚）

私は、昨年４月の人事異動で、経理関連部署へ配属されました。これまで経験した事のない業務のため、大変な面もありますが、毎日新鮮な気持ちで仕事に取り組み、充実した日々を送っています。今年は、自分自身のさらなるスキルアップのために、簿記の資格取得に挑戦し、職場の発展に貢献できる人材へと成長する、飛躍の１年としていきたいです。

昭和５年生まれ

赤津　蒔（まき）さん（石塚）

月日の流れは早いものですね。私も10年前に大病を患いながらも７回目の午年を迎えられた事は本当に幸せです。家族、ご近所の方々から元気を頂いた御蔭です。また、健康の為に高ク連のカラオケやダンス体操の先生方のご指導を頂き、皆様方にお会い出来ることに感謝し、残りの人生を楽しく過ごしていきたいと思います。

昭和17年生まれ

添田　規矩（つねのり）さん（石塚）

平成26年の新しい年を迎え６回目の干支、72歳になります。

今までは、各地の福祉施設を訪問し、グループで民謡のボランティアを行ってきました。健康であったから出来たと思います。家族にも感謝しなければなりません。私も高齢者の１人ですがもう少し世の為に活動したいと思っております。今年も誰もが健康で自然災害のない穏やかな年でありますよう望みます。

第９回 城里町表彰式典　城里町社会福祉大会

昨年11月28日(木)にコミュニティセンター城里において、町表彰式典並びに町社会福祉大会が開催されました。

式典は、阿久津藤男町長より式辞、その後来賓祝辞等があり、受賞された方々への感謝の言葉がありました。

今回受賞された方々の氏名、団体の名称は次のとおりです。なお、敬称は略させていただきます。

城里町長表彰受賞者

◆自治功労表彰　加藤木正明、一木　邦彦
◆自治表彰　石原　道明
◆一般表彰・表彰状　三村　　三、関谷　克巳、加倉井幹由、所　　治、大畠　　庄、松﨑　　勤
國井　豊吉、四倉　正博
◆一般表彰・感謝状　大﨑　健一、久保田米雄、平賀　幸男、羽根石榮一、川又　乾正、冨永　信一
添田はつ江、廣木　照美、坂本　　誠、薗部　文明、吉田　孝生

城里町社会福祉協議会長表彰受賞者

◆ボランティア表彰　大越　正子、野尻　悦子、寺門　力子、細谷　礼子、和田　雅治、杉山みち子
中山　くに、小森　絢子、武藤千鶴子、粭田勢津子、近澤ユキ子、飯村美智子
河原とし子、沼田美智子、横山ちよの、富永　美子、田谷　節子、栁橋　京子
富永　孝子、一杉元旭出、田上　道子、赤地　時子、渡邉かをる、辻元津多子
前田　弘子、石川　あさ、所　　紀子、仲田まちゑ、橋本千惠子、飯村　珠江
卜部　幸子、山倉　秀樹、加藤木　力、川又　照子、金長　洋子、髙掘　優子
小林　和子、清水　律子、仲田　幸子、飛田ひて子、伊澤　桃子、栗林まさ子
新井　紀子、園部　鴻二、寺門千枝子、奥平　啓次、加倉井幹由、山崎　明子
◆社会福祉団体役員表彰　佐久間光男、羽部　　亨、長谷川　毅、徳宿　尚仁
◆ボランティア感謝　髙橋　　實、川又　　誠、田崎千代子、武井　律子、冨山　洋子、廣木　幸子
所　　一子、駒井　英子
◆社会福祉団体役員感謝　横倉　芳郎、岡﨑　俊雄、國井　豊吉、江幡　松男、綿引みつの、青木　定司
大内　さた
◆社会福祉協議会役員感謝　横倉　芳郎、島　　榮、(故)萩谷　竹二
◆善意銀行
飯村士津雄、千波　博史、森島　廣、山崎　秀雄、皆川　泉、加藤木正道、(故)加藤鉦好、皆川美津子、鶴田　すが、横倉　芳郎、岡崎　幸子、加藤木寿男、浅井　勉、城里町文化協会、増井一区夏祭り実行委員会、与三郎庵、城里町くらしの会、常北女性会、らぶそんぐ、利根コカコーラボトリング(株)常陸大宮支店、水戸ヤクルト販売株式会社、徳蔵寺、茶道具・陶工芸 さかさ川、手話サークルつばさ、城里町商工会女性部、しろさと七夕まつり実行委員会、高根山大山寺、ケアレジデンスデイサービス城里手芸クラブ、茨城中央農業協同組合、輪を広げる会

茨城県知事表彰

興野　惠子、上圷フラワーボランティアの会

茨城県社会福祉協議会長表彰

小林美智子、富田美智子

城里町花いっぱい運動コンクール入賞団体

◆地域の部　最優秀賞　錫高野生産クラブ
優秀賞　上圷フラワーボランティアの会
下圷３世代交流団体
下古内３区

◆学校の部　最優秀賞　常北小学校
優秀賞　石塚小学校
七会小学校

3世代交流会 ～下阿野沢～

昨年の11月23日(土)、下阿野沢地区で3世代交流会が行われました。小学生を含む、地域の方約30名が集まり、輪投げやスリッパ飛ばしを楽しみました。簡単なようで難しく、大きな笑い声が絶えませんでした。

その後、町からの指導を受け、消火器の使い方や火の消し方を学びました。現実に火災が発生した時にパニックにならないように、皆熱心に聞いていました。

そして、昼食には、地域の方々が協力して作ったけんちん汁で、うどんやそばを食べました。とても美味しく、みなさんとても喜んでいました。

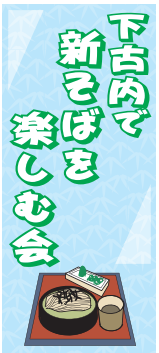
消火訓練

昼食後は、お笑い芸人漫談のＤＶＤの鑑賞です。部屋を暗くしていざ鑑賞。始まるやいなや、大きな笑いが部屋中に響いていました。中には涙を流している方も。「久しぶりにこんなに笑った」と言っている方もいました。

大人と子供が一緒に学び、遊ぶ機会が少ない中、このような取り組みは非常に大切なことであり、これからも続けていってほしいと感じました。

ビンゴゲームを楽しむ

下古内で新そばを楽しむ会



昨年11月10日(日)、下古内二区集落センターにおいて、新そばを楽しむ会が行われました。この会には、地域のつながりが希薄になっている中、若い方から高齢の方までが集い、つながりを深めるという目的があります。地域の方々約50名が参加し、新そばを楽しみながら、交流を深めました。今回が第1回ということですが、今後も続けていく予定とのことです。

準備は、実行委員会のメンバーが担当しました。そば打ち、会場準備、調理に分かれ、前日から準備に入りました。実行委員は20名。そば打ちは6名が担当しました。中でもそば打ちは、上手な方にそばの切り方などを教えてもらいながら、協力して作りました。調理は女性9名が担当し、けんちん汁やかき揚げなど、そばをみんなが美味しく食べられるように、味付けの工夫をしました。また、会場準備の方、材料を購入するために会計の方にも協力をいただきました。

当日は、小学生から90代まで幅広い方々が集いお茶を飲みながら交流をし、その後そばを楽しみました。

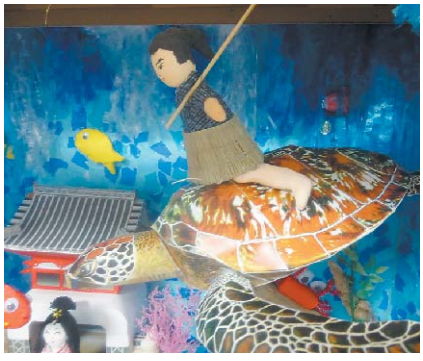
「今後は、地域の子供達も含め、もっと多くの方に参加してもらうことで、この地域の助け合いの気持ちが強くなればと思っています。今回の新そばを楽しむ会ばかりでなく、たくさんの行事で区の親睦を図っていきたいです」と阿久津区長は語られました。

調理の様子

手作りで昔話を再現

七会の社協通所介護事業所で作成した「竜宮城」と「かさじぞう」が、1月中旬まで常北保健センターの1階に展示されています。事業所では毎年公民館祭りを目指して作成し、今回は3度目です。

カメに乗った浦島太郎が竜宮城に到着する様子や、また、おじいさん、おばあさんが雪の降る日、寒かろうと地蔵さんたちに笠をかぶせてあげたお伽話の一頁が、ペーパークラフトで見事に再現されており、見る人を懐かしい昔話の世界にひきこんでくれます。



親子で楽しくクリスマス会

城里町母子寡婦福祉会

昨年12月8日(日)常北保健福祉センターにおいて、親子18名、寡婦会の役員3名が参加してクリスマス会が開かれました。

母子寡婦福祉会の中に母子部が立ち上がってクリスマス会を開くのは平成23年からだそうです。

会が始まる前、子供たちは嬉々(きき)として会場づくりの手伝いをしていました。

受付けでは、「久しぶりですね」「大きくなりましたね」「はい、7センチ伸びました」といった挨拶が笑顔と一緒に交わされていました。

出来上がったリースを持って

母子部が立ち上がったことで、3世代交流のような頼もしい雰囲気が漂っています。会は、瀬谷博子会長の「今日は、親子で存分に楽しんでください」という挨拶で始まりました。自己紹介の後、クリスマスリース作りに親子で挑戦しました。前もって準備されたパーツを使い、自分だけのリースを作るのです。リースが出来上がると、自分のものと比べたり、頭上に持ち上げ眺めたり、満足した親子の笑顔が会場一杯に広がっていました。

続いてサンタのお出ましです。真っ赤な衣装のサンタがプレゼントの入った大きな袋を担いで現れました。プレゼントは学年に応じて中身が違うようです。子供たちは、素直な笑い、照れた笑い、いろいろな喜びの仕草を示しながらプレゼントを受け取っていました。昼食は弁当を会話を楽しみながら頂きました。

最後の楽しみはビンゴゲームです。景品は子供用と大人用の2種類が用意されており、全員が景品をもらいクリスマス会は楽しく終わりました。「母子世帯の方々がもっと気楽に会員になってもらえれば」瀬谷会長の希望です。

入会については
町社会福祉協議会
☎0299-288-7013

つくしの四季 ㉘

昨年11月。つくしの畑ではさつまいもを収穫し、仲間たちのたくさんの笑顔が見られました。その頃「うちの里芋を掘りに来ませんか」と声をかけてくれる地域の方がありました。さっそくみんなで伺ったところ「掘った芋はさしあげます」といわれ、たいへん有り難く思いました。親芋と子芋を分けたり、土を落としたり、作業はたいへんでしたが、仲間たちの目はかがやき「大きな里芋ですね」「きっとおいしいですよ」と会話も大いに弾みました。ありがとうございました。

16日は、町民まつりに参加しました。「福祉の店つくし」では、仲間たちが作ったクッキーや手芸製品、保護者の手作りのジャガ芋オイスター和え、さつまスティックなど、さまざまな製品をテーブルに並べてお客様を迎えました。「こんにちは」「ありがとうございます」「こんなに良い天気の町民まつりは珍しいね」たくさんの方が来店して下さり、おかげさまで売り上げも上々でした。

30日は、コミュニティセンターで開催された「青少年相談員連絡協議会第3ブロック研修会」のアトラクションとして「よさこいソーラン」の演舞を依頼されました。これは私たち「つくしYOSAKOI城里」にとってはたいへん名誉なことでボランティア、保護者の皆さんと共にはりきって踊りました。このときは「つくしんぼ音楽隊」も演奏を行い、会場の方々には楽しんでいただけたと思っています。

この月は、公民館美術展への参加、リンゴ狩りなど様々なことがいっぺんに訪れ、準備がたいへんでしたが、充実した実りの秋となりました。

里芋の選別中

しろさと⑲ 磯野の堰(いそのせき)

みなさんは写真のような場所をご存知でしょうか。

上入野の藤井川河川に位置するこの堰は、明治初期に木堰にて設置されました。しかし、昭和13年の台風で流されてしまい、蛇籠堰(じゃかごせき)に修復されました。そして大正12年に開設された藤井川水力発電所の放流残水を用水路に導入し、かんがいをしてきました。昭和47年、藤井川発電所は老朽化により廃止され、蛇籠堰(じゃかごせき)からのかんがいが困難になったため、現在のコンクリート造り固定堰が新設されました。それにより、維持管理費の軽減と農業経営の安定につながっているそうです。

※蛇籠堰…竹や藤づる、鉄線などを丸く長軸に編み、中に河原石や砕石をつめたもの

手話を学ぶ ⑧冬

厳しい寒さの日が続きますね。今年も少しずつ手話にトライしてみましょう。今回のテーマは「冬」です。

「冬」

これは寒くて震える様子を表しています。

両手を握って体の両横におき、小刻みに震わせます。（寒い・冷たい・震える・怖いも同じ手話です）

「雪」

これは雪が降る様子を表しています。

両手の親指と人差し指で輪を作り、交互に揺らしながら手首をひねって下げます。

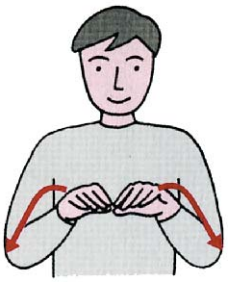
「風邪」

これは風邪をひいて、咳をする様子を表しています。

右手のこぶしを口にあて、咳をするしぐさをします。（咳も同じ手話です）小指をたてて同じしぐさをするとインフルエンザという手話になります。

「こたつ」

これはこたつの形を表しています。



両手で角のまるまったこたつの形を表します。

「オリンピック」

これはオリンピックのシンボルマークである5輪を表しています。

両手の親指と人差し指で輪を作り手首をひねって3回組み替えます。（くさり・チェーンも同じ手話です）

「スケート」

これは両手をスケートのエッジに見たてて、滑る様子を表しています。

両手の手のひらを向い合わせて、斜前に交互に動かします。「フィギュアスケート」は、「スケートの手話のあとに、人差し指と中指を足に見たてて、回しながらジャンプすることで表します。

（すぐに使える手話辞典6000より引用）

第4回 錫高野いも煮会とカカシ祭り

昨年の11月23日(土)、県道246号線沿いの広場にて、第4回錫高野いも煮会とカカシ祭りが晴天の中開催されました。

カカシは今回、孫根区・高根区・上圷区・桂聖明園（老人ホーム）が初めて参加し、40数体も展示する事が出来ました。カカシ展示中（11月17日～30日）は近隣の方や遠方の方も毎年楽しみに来られるとの事です。

会場内には、錫高野地区在住の3世代が大勢集まり、焼きそば・けんちんうどん・大判焼き・焼いも等が無料で振る舞われたり、もちつき大会やトランペット吹奏などもあり賑やかなお祭りでした。

このお祭りは、10数年前の桂村時代に、「地域の輪を広げ、地域の中での交流を深めて、地域の活性化にしよう」という村からの働きかけでスタートし、3世代交流が起点となり今日に至っています。

錫高野いき生きクラブ南條会長に苦労した事はと伺ったところ、「みんなが助け合い、楽しみながら祭りの準備を進めてくれたので、苦労なんてありませんよ」と笑って答えてくれました。

少子高齢化が年々進む錫高野地区では『**みんなで元気な村にしよう！**』を合言葉に地域の方々の協力のもと今後もお祭りを続けていきたいと三村区長が語られました。

会場で遊ぶ子供達をやさしく見守る大人達の姿を見ていると、〝地域の方々〟というよりは、〝大きな家族〟に見えてきました。

なお、お祭りで集まった募金は、社会福祉協議会に寄付をするそうです。

カカシ見物

わが町のさわやか元気さん ㉜

横倉　すゑ さん　87歳　上坏

大正15年生まれのすゑさんは、今年88歳となり、米寿を迎えられます。

ご主人は昨年5月に亡くなられましたが、すゑさんの笑顔が大好きだと、常に話されていたそうです。

すゑさんの住まいと同じ敷地で、桂農機商会を経営する長男一則さん（那珂西在住）が週3日は泊ってくれるので安心とのことです。

趣味は60代の頃は社交ダンスを、今は新舞踊を習っています。

グラウンドゴルフ、クロッケー、輪投げと運動をしています。地区18名のメンバーで、上坏フラワーボランティアの会の活動を続け表彰も受けています。

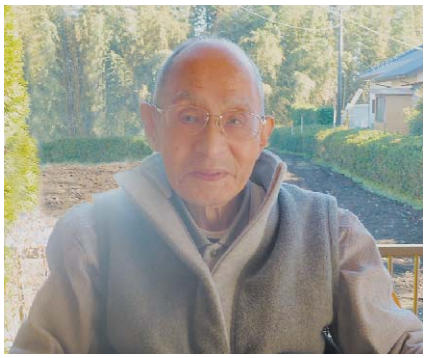
病知らず、健康状態は良好です。健康の源は自転車に乗る事です。交通手段として、買物、畑仕事と毎日走っています。

笑顔で、明るく元気にお過ごしください。

八田　三郎 さん　91歳　上阿野沢

八田さんは、公民館で歴史の勉強を始め、古文書に興味を持ちました。趣味のつなぎ折鶴を作り始めたきっかけは、古文書の「ふたつみつ折るときは忽ち工夫つきて、いと易く折れるなり」の文でした。

早速水戸市立図書館に足を運び「秘傳千羽折鶴形」の本をみつけました。江戸時代、桑名市の長圓寺の住職が連鶴を折っていた事を知り感動しました。本を借りて作り始めたのですが、本には詳細な説明がなくて試行錯誤を重ねた末に2羽つなぎができ、百鶴が作れる様になったとの事です。



91歳の今も一人でバスに乗り、水戸まで材料の和紙を購入しに行くそうです。向上心があり、何時も前向きの八田さんはとてもおしゃれで、趣味の読書とつなぎ折鶴作り等で毎日をエンジョイされています。

これからもお元気でお健やかにお過ごしください。

シルバー人材センター料金改定のお知らせ

○消費税率の引き上げに伴う事務費の変更について

平成26年4月1日より、消費税率が5％から8％に引き上げられます。

センター事務費は、現在7％ですが、消費税率が3％引き上げられることに伴い、同様に3％を引き上げ10％となります。

○茨城県最低賃金の適用について

センターでは、茨城県が定める最低賃金（平成25年10月20日より713円）により、配分金基準額の見直しを行っています。

これらは、各戸配布のチラシ等により周知してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

（問い合わせ先）
城里町シルバー人材センター
☎029-288-7013

目次

初日の出 …… 1
新年のご挨拶 …… 2
きらっと生きる …… 3
今年の抱負 …… 3
社会福祉大会 …… 4
3世代交流会（下阿野沢） …… 5
下古内で新そばを楽しむ会 …… 5
手作りで昔話を再現 …… 6
親子でクリスマス会 …… 6
つくしの四季 …… 6
しろさと⑲ …… 7
手話を学ぶ⑧ …… 7
第4回錫高野いも煮会とカカシ祭り …… 7
わが町のさわやか元気さん㉜ …… 8
シルバー人材センター料金改定のお知らせ …… 8
目次・編集後記

編集後記

いつも「かざぐるま」をご愛読いただきましてありがとうございます。発行にあたり何回かの編集会議を行いますが、ときどき言葉の言い回しが話題になることがあります。地域や年代によっても同じ意味を表す言葉に違いが出てきます。これからもこのようなさまざまな問題に悪戦苦闘しながら委員一同、心をひとつにして広報紙を発行していきますのでよろしくお願いいたします。

（わ）